

# なべしま新聞

## 自然の景観に溶け込む ゆがわらの梅林

2005年4月号  
20

なべしま新聞/第20号  
発行責任者: 鍋島一博  
株式会社アイファースト  
〒259-0301 神奈川県  
足柄下郡湯河原町中央  
2丁目18番地26  
電話 (0465) 60-4455  
FAX (0465) 60-4466



ゆがわら温泉 「梅の宴」-幕山公園-  
平成17年1月29日~3月21日



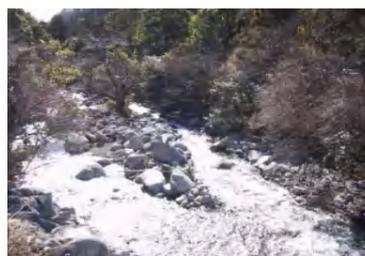
時の流れは速いもので、昭和三十年代の頃、子供たちは群れを作って遊んでいました。学校から帰るとランドセルを放り出し、宿題なんかそっちのけで遊びに行っていたものです。当時はあちこちに遊び場がありました。小学生は集団登校などもあり皆顔見知りでした。上級生も下級生も一緒に遊んだもので、季節によっても遊びが変りました。ビー玉が流行ると、いつの間にかベーゴマ、メンコに変わり、秋の収穫時には稲村くずしをして、農家のおじさんに怒鳴られ追いかけられたものです。



子供たちの遊びの定番は、二手に分かれて追い駆けっこをすることでした。追いつくのは怖い遊びでした。



記憶では、幕山へ登る麓の途中に沼がありました。初夏にはオタマジャクシが大量に発生するのです。殿様蛙、ガマ蛙の天国ではなかったかと思えます。一度オタマジャクシを沢山獲ってきて水槽で飼ったことがあります。鯉節を入れるとわつとむらがり食べていたようです。飼育方法がよくわからず蛙に成長することなく死なせてしまいました。今では幕山は麓までの道のりも整備され、日本有数の梅林に生まれ変わりました。自然の景観を生かした梅林として、一月から三月にかけて訪れる人々の目を楽しませています。梅林に行くたびに子供の頃の遊びがよみがえります。



地域社会に貢献することを目指して！

# アイファーストメンバー紹介



中山 川瀬 鍋島 松原 荒井

## 「正太郎の結婚」

アイファースト唯一の独身男性《荒井正太郎》が結婚しました。結婚式を終えての感想を本人が語ります。



『本年二月に私、荒井正太郎は結婚式を挙げました！結婚式の道のり』

(一年)は、あっという間でした。結婚なんて夢にも思っていなかった昨年、人生の歯車が突然結婚に向かって回り始めたのです。



妻との出会いは予期せぬものでした。先輩たちの飲み会に呼ばれ隣同士となったのです。彼女のことはほとんど何も知らず、彼女がこの場所にいる理由もわかりませんでした。どこに住んでいるのか名前さえも知らなかったのです。彼女に聞いて見るとびっくり。住まいは私の家から歩いて三分の所にありました。「不思議な巡り合わせだ！この出会いは運命だ。」と私は確信したのです。会話が楽しく、気を遣わずに何でも話せました。



アイファースト事務所・ヤオハン前を幕山公園通りに向かって行きます。



二家族おそろいで、正太郎、皆様へお礼のスピーチ。いつもは涙もろい正太郎、号泣することもなくよく言えました。本人ホッと一安心。

このように女性に会ったのは初めてでした。結婚する相手は、この女性しかいない。逃してはいけない。と一世一代の勝負に出ました。

言い尽くせないほどの困難を乗り越え、結婚が決まりました。結婚式は箱根の湖畔に佇む静かな老舗ホテルです。打ち合わせで何度も行きたびに、その素晴らしさに感激！式前夜、満天の星を見ながら入った露天風呂は最高でした。式当日、ホテルのロビーには二十メートルにわたって真っ赤な絨毯が敷かれ、正面には光り輝く大ステンドグラス、二人を祝福するかのように見下ろす十字架。神父さんの言葉に、緊張で手袋は汗でぐっしょり。体は金縛りに遭い、披露宴ではいくらか飲んでも酔えず、皆様の温かい言葉に目頭が熱くなりました。結婚式ってホント最高！友人たちの祝福の歌声や余興「ギター侍」は会場を大いに沸かせ、祖父のハワイアンも年齢を感じさせない癒し効果抜群の歌声でした。

結婚式を終え、私たちは感謝の気持ちでいっぱいです。いつまでもこの気持ちを忘れずに、ここから新たな出発をします。』

結婚は人生の一大事、多くの方々がお祝いを言ってくださる唯一の機会と言って良いでしょう。偶然の出会いも人生の妙味。これで当社の社員は、すべて既婚者となりました。自分のために生きていくというよりも、誰かのために生きていく事の方が、人生に張り合いがあるのではないのでしょうか。